

平成15年度主要工事

1 茂原高等学校格技場

工事概要

- ・所在地 茂原市
- ・構造・階数 RC造 2階
- ・延べ面積 1,132.80㎡
- ・建築面積 713.21㎡
- ・工期 H15.7～H16.3
- ・設計 (株)水野設計



北側外観



南西側外観



剣道場



柔道場

2 松戸高等学校格技場

工事概要

- ・所在地 松戸市
- ・構造・階数 RC造一部S造2階
- ・延べ面積 707.10㎡
- ・建築面積 393.38㎡
- ・工期 H15.6～H16.2
- ・設計 (株)鈴木建築設計事務所



東南側外観

平成15年度主要工事

3 市川児童相談所

工事概要

- ・ 所在地 市川市
- ・ 構造・階数 RC造一部S造 3階
- ・ 延べ面積 2,298.47 m²
- ・ 建築面積 1,200.70 m²
- ・ 工期 H15.10～H16.11
- ・ 設計 (株)坂倉建築研究所



正面夜間外観



南西外観



中庭



北東側俯瞰



講堂



待合室



遊戯治療室



ホール

本施設は、要保護性の高い困難な児童虐待事例への対応や市町村の後方支援を行うため、相談・処遇・一時保護といった基本的機能、多様化・複雑化する児童問題に柔軟な対応が可能のように専門性の向上を図る機能、地域児童福祉の中核施設としてのコア機能等の充実や利用者の視点に立った利用しやすい施設であることなどを整備要件とし改築されたものです。

建物は、配置を中庭のあるコの字型にして、安全性でプライバシーのある園庭を設けるとともに相談・処遇機能部分と一時保護部分のゾーン分けを行い相互のプライバシーを確保し、自然光を取り込んだ明るい空間と県産材などの自然素材による仕上げ、屋上庭園などによる温もりと癒しの感じられるつくりとしています。

また、低層化と壁面のセットバック、周辺緑化、道路側の開口部に再生木製のルーバーを設けるなど、周辺環境へ配慮するとともに、施設内外相互の視線の交錯を抑えることなど訪れやすい柔らかな外観デザインとなっています。

4 真間川改修事務所

工事概要

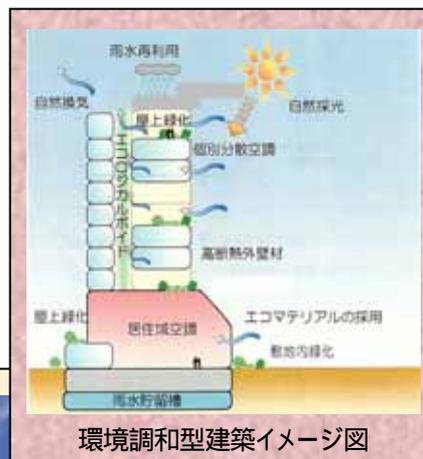
- ・ 所在地 市川市 ・ 構造・階数 S造 2階
- ・ 延べ面積 602.64 m² ・ 建築面積 412.37 m²
- ・ 工期 H15.6～H15.12
- ・ 設計 (株)シテイクリエイト



5 (仮称)福祉ふれあいプラザ等

工事概要

・所在地	我孫子市	・延べ面積	12,575.01 m ²
・構造・階数	S造一部SRC造 地下1階地上12階	・建築面積	2,758.71 m ²
・設計	(株)梓設計	・工期	H16.3～H18.2



完成予想図

本施設は、高齢化の進展するなか、福祉や健康づくりの拠点施設として、介護実習・普及センター、障害者相談センターやリハビリ機能、女性のための相談機能及び我孫子市支所、市民活動支援センター等の機能を併せ持つ施設で、JR 我孫子駅前に我孫子市と合同で建設しています。

建物は、限られた敷地の中で合理的な空間構成とするため、明るく開放的な低層棟と各階単独運営が可能な高層棟に分けて構成し、周囲に、駅前広場と一体性を持たせたアプローチ広場やエントランス広場、歩行者デッキ、歩道状空地などの整備にあわせ、随所に緑を配置することにより、スムーズで潤いのある動線を確保するとともに、外観を施設の賑わいが感じられる透明性のあるデザインとし、わかりやすく入りやすい施設となるよう計画しています。

誰もが安全で使いやすく居心地良く過ごせる施設とするため、耐震安全性を確保するとともに、音声誘導装置を始めとしたユニバーサルデザインの考え方を採り入れた施設計画としています。

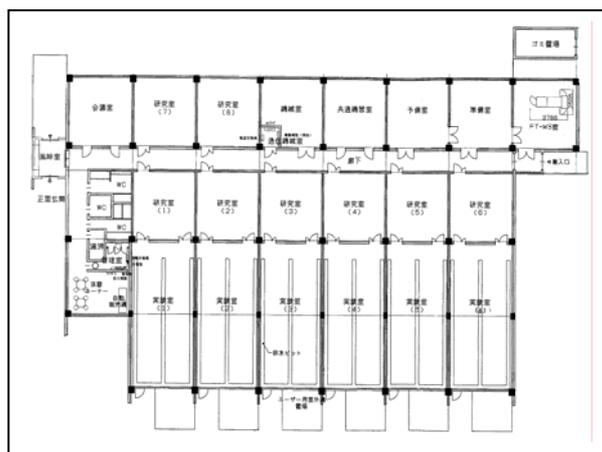
また、自然エネルギーを効率よく利用し省資源省エネルギー建築を目指し、屋上緑化、敷地内緑化の推進、雨水利用、夜間電力の利用、自然採光・自然換気導入のために高層棟中央部に吹抜けとそれに隣接したパティオ設置など、地球環境・地域環境との調和を図った設計となっています。

平成16年度主要工事

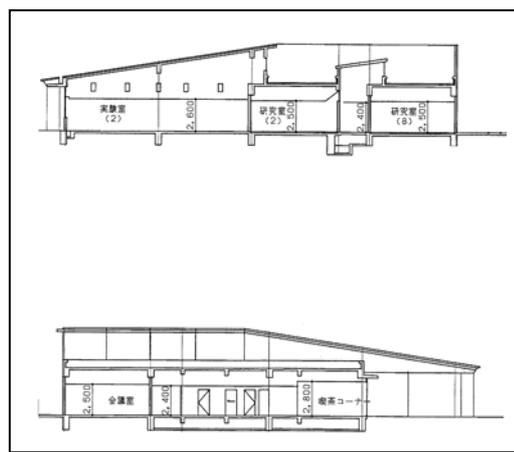
1 (仮称)かずさバイオリサーチセンター

工事概要

- ・ 所在地 木更津市
- ・ 構造・階数 RC造 1階
- ・ 延べ面積 1,450.0 m²
- ・ 建築面積 1,645.0 m²
- ・ 工期 H16.10～H17.3
- ・ 設計 (株)日建設計



平面図



断面図

本施設は、県内外の大学や企業等から研究者が幅広く参画して、かずさDNA研究所等の研究成果を活用し、産業化に向けた共同研究を行うための産学官共同研究施設です。

環境との調和を図るため、周囲の自然や、既施設外周の緑との連続性を保つランドスケープとし、既存の緑地をできる限り残し、敷地周辺には、既存林と調和した樹木を配置し、自然な雰囲気を感じさせる計画としています。

建物は、平屋建てで、傾斜屋根を設けるなど周辺環境になじみやすい外観で、内部は、研究部門と共用部門を明確に分け、面積効率のよい、コンパクトで利用しやすい平面計画とし、さらにメンテナンスや設備の模様替えなど将来の変化に対応しやすい計画としています。

また、研究施設であり、人命及び物品の安全性の確保が重要な施設であるため、耐震性、耐久性を重視した構造とし、排水などによる汚染防止、万一の事故からの安全の確保や防犯対策など安全性に配慮した設計としています。